

平成24年度文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン 外部評価委員会

External Evaluation 2013

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン連携7大学運営連絡会
(順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学)

平成25年10月25日(金) 午後1時

順天堂大学10号館1階105会議室

1. プログラム	1
2. 事業概要	2
全体事業概要説明	3
① 教育分野	
鳥取大学	4
明治薬科大学	4
② 地域分野	
島根大学	5
岩手医科大学	5
③ 研究分野	
東京理科大学	6
立教大学	6
④ ICTと大学間連携事業	
順天堂大学	7
3. 達成目標と自己評価	
達成目標・評価指標	8
自己評価	9
4. 各大学のコース紹介と養成実績	
順天堂大学	11
島根大学	13
鳥取大学	15
岩手医科大学	16
東京理科大学	18
明治薬科大学	19
立教大学	20
5. がんの特化した講座等について	
順天堂大学	21
腫瘍内科学研究室	
緩和医療学研究室	
放射線治療学講座	
島根大学	22
緩和ケア講座	
岩手医科大学	22
緩和医療学科	
放射線腫瘍学科	
明治薬科大学	22
がん先端治療学	

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン外部評価委員会

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン～ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン～では、これまでの事業活動を振り返り、また今後の活動の重要な指針とするため、外部評価委員会を受審することといたしました。評価の受審にあたっては、まず自己点検表を作成し、事前配布資料として評価委員に呈示いたします。次に、主幹大学の順天堂大学にて審査会を開催し、事業内容・活動内容を説明して評価をいただく予定としています。

開催概要

日時：平成25年10月25日(金) 13:00～16:00
 場所：順天堂大学 本郷キャンパス 10号館1階105カンファレンスルーム
 評価委員：委員長 >>> 堀田 知光 (独立行政法人 国立がん研究センター 理事長)
 委員 >>> 入村 達郎 (聖路加国際メディカルセンター 特別顧問/医療イノベーション部長)
 委員 >>> 櫻井 なおみ(特定非営利活動法人 HOPE★プロジェクト 理事長)

プログラム

司会 >>> 統括コーディネーター 高橋 和久
 (順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学 教授)

1. 開会挨拶	13:00～13:10	10分
統括責任者 >>> 順天堂大学 学長 木南 英紀		
2. 事業概要説明	13:10～14:40	90分
全体事業概要説明 15分		
事業推進責任者 >>> 順天堂大学大学院医学研究科長 新井 一		
① 教育分野		20分
鳥取大学医学部病態検査学講座 教授 廣岡 保明 明治薬科大学 副学長 / 薬物治療学 教授 越前 宏俊		
② 地域分野		20分
鳥根大学医学部緩和ケア講座 教授 中谷 俊彦 岩手医科大学内科学講座(血液・腫瘍内科分野) 准教授 伊藤 薫樹		
③ 研究分野		20分
東京理科大学薬学部 教授 花輪 剛久 立教大学理学部物理学 教授 栗田 和好		
④ ICTと大学間連携事業		15分
順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学 教授 高橋 和久		
3. 外部評価委員からの質問	14:40～15:15	35分
～ 質疑応答 ～		
休憩	15:15～15:30	15分
4. 外部評価委員による講評	15:30～15:50	20分
5. 閉会挨拶	15:50～16:00	10分
順天堂大学大学院医学研究科分子病理病態学 教授 樋野 興夫		

事業概要

全体事業概要説明

事業推進責任者：順天堂大学大学院医学研究科長 新井 一

ICTと人で繋ぐがん医療維新プランの概要と期待される効果

本プランでは、本学及び連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を目的としています。

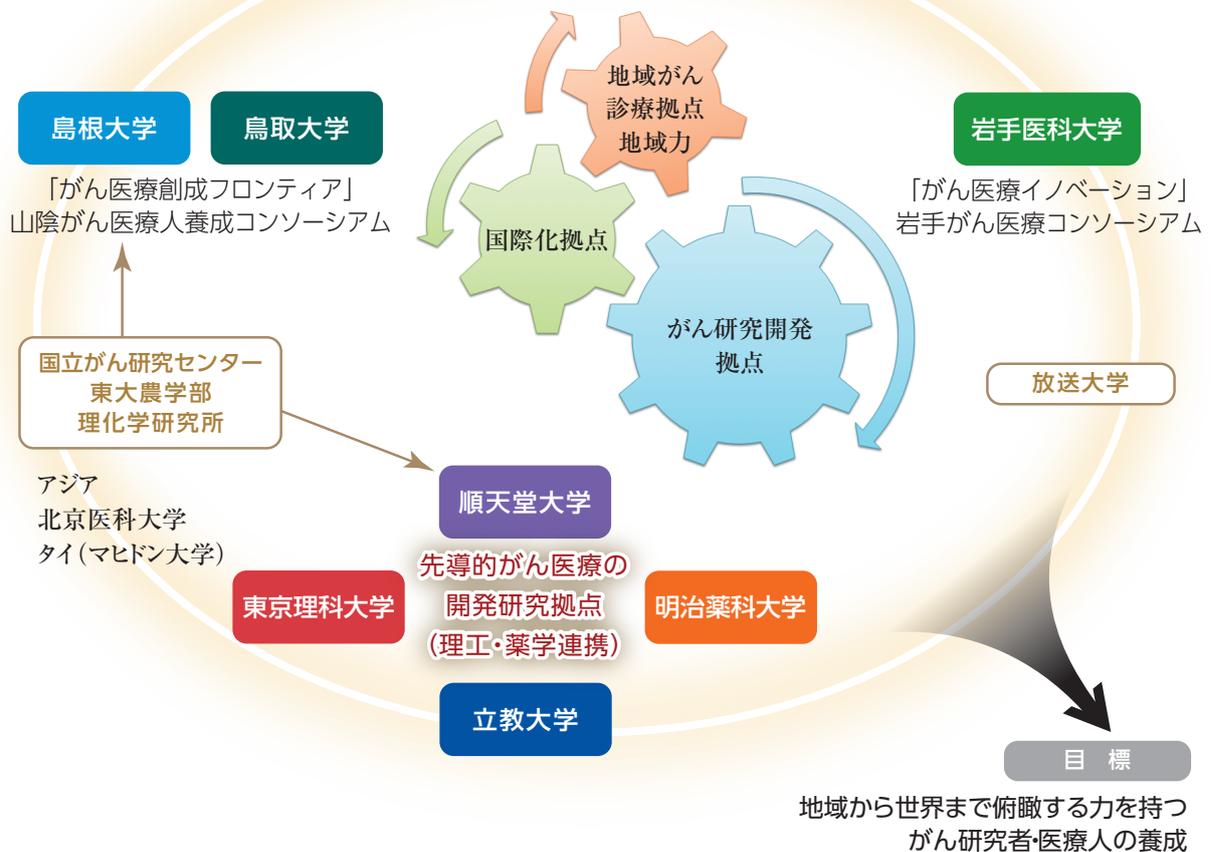
順天堂大学に整備する先導的がん医療開発研究センターを拠点とし、医・理工・薬学部との連携強化と実質化を図り、山陰と東北の地域内診療ネットワークと首都圏のがん医療開発拠点との新たな連携を推進します。

医学・薬学・理学・工学連携による多学的な研究の促進は、がん研究の成果を臨床の現場に迅速かつ効率的に導入することを可能にします。がん医療開発研究の基盤となる拠点を首都圏に置き、山陰・東北地方の大学との連携をICTおよび人材交流を介して推進することにより、研究成果を速やかに地域がん医療に還元することができます。

地域と首都圏の間で循環型人材交流を行い、がんの診療現場のニーズを共有することで、シーズが生まれます。がん診療を実践する専門医療職は、先導的がん医療の開発現場に関わることで、臨床試験、創薬、バイオマーカー検索に携わることが可能になり、新薬の開発が加速し、我が国のがん医療の均てん化と底上げが期待されます。

“絆”の構築

人の循環とICTによる人材ネットワークの整備



事業概要

① 教育分野

鳥取大学

鳥取大学 医学部病態検査学講座 教授 廣岡保明

鳥取大学におけるがん医療人養成の取り組みについて

本学における主な取り組みとしては、(1)がん医療人の養成(①がん化学療法看護認定看護師、②がん専門看護師、③山陰がん認定医療スタッフ)、(2)地域医療機関との交流、(3)社会への情報発信、などを行ってきた。

(1)ー①平成24年9月より『がん化学療法看護認定看護師教育課程』を開講し、受講生7名(目標の70%:全国9施設中1施設のみ150%で他は50~90%)に、多職種連携(本学、連携大学およびがん診療連携拠点病院等の看護師、医師、薬剤師、検査技師、臨床心理士、事務などの教職員等)による講義(DVDも活用)、演習、実習を約7ヶ月間(合計660時間)行い、全員が認定試験に合格(目標の100%)した。本年度(平成25年)も9月より同教育課程を受講生9名(目標の90%:全国では45~73%)で開講。本教育課程修了者からは、自分自身の質が向上し他の看護師に指導できるようになった、各修了者の所属病院看護部長からは本教育課程に満足している、とアンケートの回答があった。

(1)ー②『がん看護専門看護師養成課程』を、大学院医学系研究科保健学専攻内に設置するため、平成24年度より看護教育論、看護倫理、看護管理論、看護研究などの必要科目を整備すると共に、大学院医学系研究科保健学専攻長を委員長として、研究科長(医学部長)も含めたワーキンググループで設置準備を進めている。

(1)ー③鳥根大学と共同で『山陰がん認定医療スタッフインテンシブコース』を開講し(鳥取大学ではセミナー9回施行)、一般枠で受講した検査技師の1人が細胞検査士資格認定試験に合格した。(2)近隣の地域がん診療連携拠点病院において『緩和ケア研修会』(年1回)を開催。また、「院内がん登録准拠点病院に対する研修会」を本院がんセンターにおいて開催。(3)鳥取大学主催の市民向け「サイエンスアカデミー」において、がんに関する基礎知識などを講演し、社会への情報発信を行った。

明治薬科大学

明治薬科大学 副学長/薬物治療学 教授 越前宏俊

国際的な視野を持ちがん薬物治療に関与できる薬剤師の育成

順天堂チームのがんプロフェッショナル養成基盤推進事業において、本学は主として①がん専門薬剤師の育成に関わる教育と、②他の連携校とのICTを利用した教育活動における貢献を目的としている。

①がん専門薬剤師の教育においては、がん専門薬剤師資格の取得を目指す社会人薬剤師に大学院の門戸を開き学生を受け入れている。また、今後6年制薬学卒業生に対してがん専門薬剤師への指向を促進するため、第1期がんプロ事業終了年度には日本臨床腫瘍薬学会理事長である遠藤一司氏を医薬品安全管理学教授として招聘し、さらに第2期がんプロ事業開始年度に緩和医療薬学会代表理事である加賀谷肇氏を臨床薬剤学教授に招聘し、大学院教育とともに学部教育においても薬物治療・緩和医療教育を独立した半期カリキュラムとして開始した。今年度には、寄付講座「がん先端治療学:アルファ粒子線・免疫治療学」に柳衛宏宣教授を迎え、がん治療の研究においても万全の体制を整えた。本学独自の教育活動としては、大学院・学部学生、教員を対象としたがん薬物治療講演会を年間6回程度実施し、国内の著名がん専門薬剤師だけでなく、2回はがん専門薬剤師教育の先進国である米国イリノイ大学薬学部教員などからがん専門薬剤師を招き、大学院・学部学生、教員、社会人薬剤師を対象とした講演会を開催し毎回多数の参加を得て好評である。この講演会は本学HPおよび順天堂大学のがん生涯教育センターのHPへの掲載を通じて広く社会に情報発信をしている。また、今年度は学園祭に合わせて行われる市民講座にがんプロ事業が共催し、本学遠藤一司教授による「がんの薬物療法を学んでみませんか」～抗がん薬によるがんの治療を安全に行うために～を実施する。

②ICT活動としては、従来から順天堂チームのICT特別講義に聴講参加しているが、本年度は本学が主催した連携大学ICT特別講義『がん医療コーディネーター(CRC/共同研究コーディネーター)』を実施した。筑波大学の管理するICT教育コンテンツにも本学教員が出講を開始している。

順天堂チーム連携校との連携においては、各校で開催されるFD合宿に本学教員および大学院生、ポスドク研究員が欠かさず参加し、FD活動の中から共同研究のテーマを見だし研究活動を活性化している。

事業概要

② 地域分野

島根大学

島根大学 医学部緩和ケア講座 教授 中谷俊彦

本学における地域貢献への取り組み

島根大学では平成19年度に開始された、がんプロフェッショナル養成プランで、がん専門医療人の育成体制の整備と山陰地区での地域ネットワークの構築に取り組んできた。平成24年度から新たに開始された、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、従来、島根大学において築いてきたがん診療基盤(呼吸器・臨床腫瘍学講座、放射線腫瘍学講座、腫瘍センター)を充実するために医学部に緩和ケア講座を新たに設置し、専任教授を選定した。「地域貢献」をテーマ、大学院に新たに設置する「地域がん専門医育成コース」では、地域に多い高齢者ががん医療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療専門医を養成すると共に、リサーチマインドを有し、臨床試験を計画し、山陰地区からエビデンスを発信できる人材を育成する。また、山陰全域の日常のがん治療水準向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識・基本技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師及びメディカルスタッフの養成と認定を行う目的で、地域がん診療ネットワークの強化と山陰全域のがん診療の均てん化を図る、斬新的な「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を鳥取大学と共同で設置した。これらの事業を推進するために、順天堂大学、国立がん研究センターをはじめとする首都圏の大学や連携病院ならびにトーマスジェファーソン大学などの米国トップレベルの施設で実地研修を行うための医療人派遣も計画している。

岩手医科大学

岩手医科大学 内科学講座 血液・腫瘍内科分野 准教授 伊藤薫樹

地域におけるがん医療人育成への取り組み～人とICTでつなぐ地域医療と教育連携の確立

岩手医科大学および岩手県地域がん拠点・中核病院のがん医療・教育の質の向上を目指し、独創的かつ効率的ながん医療人養成事業を進めてきた。地域で求められる標準的医療の均てん化・先進医療技術の習得のみならず次世代がん研究に向けた臨床研究基盤形成に携わる人材育成(インテンシブコース)として「先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース」と質の高い緩和医療を提供できる人材を育成する「緩和ケア地域連携を支援する指導的医療人育成コース」の2つのコースを設定した。現時点でのべ6名の受講生を受け入れている。本プランの特徴は、首都圏と地域それぞれの利点や問題点を理解できる人材育成である。特に、がん臨床研究実践の担い手となる医師・看護師・薬剤師・CRCなどの専門職種参加型の多職種インテンシブコースの開講は高品質・効率的な連携型の臨床研究基盤形成に実質的な次世代に繋ぐ効果が期待できる。さらに、前がんプロの成果である北東北がん医療コンソーシアム(地域がん拠点病院とのネットワーク)を情報ハイウェイ画像システムでつなぎ、定例の共同がんボードミーティングなどを開催し、ICT下での北東北地域間の双方向型教育・がん医療の均てん化が進んでいる。平成24年9月には、首都圏・地域の大学および医学部・薬学部・工学部教員の多職種交流を通じた連携下の指導能力向上のために、本学主催でFDワークショップを開催し、共通教育カリキュラムの作成を行い、循環型交流の基盤を作った。一方、平成25年5月に、本学主催で開催した連携ICT講義「患者がもつめるがん医療」では患者会代表者と連携大学間で活発な双方向議論が行われた。また、がんの診断・治療カンファレンスを定期的にICTを活用して開催し、実際のべ6回実施された。社会への情報発信として、平成25年1月に公開シンポジウムを開催し、地域医療連携の重要性やがんの臨床研究の進歩と今後の地域での教育・研究のあり方について認識の共有を図った。地域における人材育成と医療の均てん化には、人とICTを活用した多職種連携が必要不可欠である。今後は、これまでに形成された地域間・首都圏-地域でのネットワークを基盤に、実践的医療連携を軸とした教育を進め、地域医療・臨床研究の質の向上に資するがん医療人育成を図っていく。

事業概要

③ 研究分野

東京理科大学

東京理科大学 薬学部 教授 花輪剛久

東京理科大学におけるがんシステム・創薬研究者養成コースについて

本コースは薬学研究科薬科学専攻修士課程の学生を対象とし、
(1) がん細胞及び制がん剤作用機序を細胞内シグナル伝達系の集積による「システムの統合」として理解し、さらに、
(2) がん分子標的薬開発を標的タンパク質の立体構造情報に基づいて理論的に創薬する「in silico 創薬」を実践できる研究者を養成することを目的としている。

平成24及び25年度にはそれぞれ10及び6名の学生が参加し、各年度の定員(3及び5名)を超過した。本コースの学生には基礎生物化学特論等を通して、がん病態や制がん剤の作用・副作用機序を中心とした「がん統合システム」及び「in silico創薬」の基礎を教授するとともに、創薬支援システム“MolNavigator”を用いて理論的創薬手法を体験させている。これと並行して、従来からがん研究に用いられている各種の実験装置・機器並びに動物実験の講習会を定期的開催し、より優れた実験及びデータ解析技術を身につけたがん研究者の養成に努めている。

連携大学とも複数の共同研究がスタートし、ICTを活用した定期的な進捗報告会・討論がなされている。例えば、本学と順天堂大学との細胞外マトリックスに着目した共同研究では、毎月のICTカンファレンスが行われている。

立教大学

立教大学 理学部物理学 教授 栗田和好

立教大学における取り組みについて

立教大学の本プロジェクトの達成目標は

- ① 物理学の素養を身に付けた放射線がん治療の専門家の養成
- ② 放射線がん治療の質向上に向けた研究テーマの追及

である。現在、定年制教員5名、特任准教授1名、後期課程院生3名および前期課程大学院生3名がその目標に向かって研究を推進している。

昨年度より追求してきたテーマは

- ① 放射線物理過程を追求した放射線治療・診断の高精度化手法の確立と生体組織等価吸収線量及び生体内線量分布モニター技術の開発
- ② 医療現場における統計解析を利用したリスクマネジメント

であり、これまでの成果は主著者学会発表7件、共著者発表17件にて公表している。

後期課程に設けられている医学物理研究コースには2012年度1名、2013年度2名の入学があり、プロジェクトの前半としては良い滑り出しと考えている。また、院生を中心に医学物理若手の会やゼミの立ち上げが行われ、主体的な学びの連携が整いつつある。このような活動の結果、学部学生から医学物理を目指す学生が見受けられる状況に至ったことは特筆に値する。がんプロシンプジウム開催や近々利用可能になる基礎物理学e-learning教材の提供も達成することができ、プロジェクトは順調に進んでいると評価できる。

更に、順天堂大学との相互教育プログラム協定の元、今年度中の医学物理教育コース認定を視野に入れており、連携の深化を目指している。

事業概要

④ ICTと大学間連携事業

順天堂大学

順天堂大学大学院 医学研究科呼吸器内科学 教授 高橋和久

がん研究者・医療人の養成におけるICT活用と人で繋ぐ大学間連携事業

本プランでは、連携医科系大学と非医科系大学をICTと循環型人材交流で結び、がん研究者・医療人の養成を目的としている。

昨今のICT技術革新は目覚ましく、遠隔教育や遠隔医療などの利用例が続々報道されている。本グループにおいても、ICT環境を活用して連携大学間における情報共有、教育力・研究力の向上に努めている。本グループに所属する7大学の連携範囲は、東北・首都圏・山陰と広域にわたるため、定期的な情報共有・情報交換においてはICTの活用は必須と考えられる。(主なICTの活用状況事例については、①②③④の通りである。)

ICTの活用が本事業における広域な連携および情報共有にとって重要な役割を果たしているが、一方では年に数回ではあるが、大学間連携事業(ワークショップ・研修会)などを通じ、研究者・医療人同士が直接向き合い円卓を囲んだワークショップ・研修会を開催するなど対話力を向上させる大学間連携事業の開催も積極的に実施している。(連携事業の実施状況については⑤⑥の通りである。)

このように、ICTの活用とface-to-faceによるコミュニケーションを重視した事業とのバランスを最適の状態に保ちながら、密に連携図っていくことが、本事業の真の目的とも言うこともできる。

- ① 連携7大学運営連絡会
- ② 連携ICT特別講義
- ③ 連携大学および地域関連病院・協力施設との共同カンファレンス
- ④ 先導的がん医療開発プログラム(研究コンサルティング事業)※平成25年10月本格運用開始
- ⑤ 連携FD研修会(FDワークショップ)
- ⑥ 臨床研究チーム合宿[研修]



達成目標と自己評価

達成目標・評価指標

達成目標	達成目標に対する評価指標(定量的なもの)	達成目標に対する評価指標(定性的なもの)
ICTを活用し連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> ● 7大学運営連絡会(年6回以上開催) ● e-learningを活用(共通科目11科目作成) ● ICTを活用し、双方向の授業を開催(共通科目年4回開催) ● 共同授業カンファレンス開催(年5回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域に渡る連携大学間の交流促進 ● 双方向授業、共同授業カンファレンスによる遠隔地の教員・学生の情報共有・連携強化
循環型交流の実現をする	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携大学間において共同研究実施(5プロジェクト) ● 共同授業カンファレンス開催(年5回以上) ● 多職種コミュニケーション研修(合宿)毎年1回開催 ● 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの開催(年1回以上) ● 連携大学間の教員循環授業を開催(年7講義以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床研究、臨床試験、国際共同臨床試験等への参加
地域との交流・均てん化の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学病院と地域病院間での共同カンファレンス開催(年2回以上) ● 多職種コミュニケーション研修(合宿)毎年開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療機関での実習実績 ● 地域がん登録との連携
国際化に向けた拠点センターの設置	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際学会等での研究論文発表数(年間5件以上) ● 海外の先進的な研究機関等への研修派遣(年間1名以上) ● 海外の先進的な大学から教員を招聘し講義を開催(年3回以上) ● 海外より招聘し、国際シンポジウムを開催(年1回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究コーディネータの雇用 ● がん研究者の連携・共同研究の実施
がん診療への貢献・社会への情報発信をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> ● HP更新(月1回以上) ● 一般向講演会の開催(年3回以上) ● 活動報告書作成(年1回) ● ニュースレター作成(年4回) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床現場との連携強化
がん医療教育の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ● インテンシブコースの設置(連携大学あわせて3コース) ● e-learningを活用(共通科目11科目作成) ● ICTを活用し、双方向の授業を開催(共通科目年4回開催) ● 各コースの受入目標人数に対する充足率100% ● 認定看護師資格取得100% 	<ul style="list-style-type: none"> ● チーム医療の重要性を教育 ● 実質的ながん医療人の教育 ● ファカルティ・ディベロップメント(ワークショップ)のプロダクト ● がん治療認定医の資格取得を推奨
がん研究の実施基盤の設置	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携大学間において共同研究プロトコルの作成(5プロジェクト以上) ● がんに関する研究論文発表(年間5件以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ● がん研究者の連携・共同研究の実施

達成目標と自己評価

自己評価結果（平成24.25年度）

■ 連携7大学での共同事業および各大学における分担事業の自己評価（7大学の平均値）を表示しています。

達成目標	評価区分	評価指標	自己評価平均値			
			達成目標	評価区分	評価指標	
ICTを活用し連携を深める	定量的評価	7大学運営連絡会（年6回以上開催）	4.4	4.6	5.0	
		e-learningを活用（共通科目11科目作成）			3.7	
		ICTを活用し、双方向の授業を開催（共通科目年4回開催）			5.0	
		共同授業カンファレンス開催（年5回以上）			4.6	
	定性的評価	広域に渡る連携大学間の交流促進	4.0	4.0	4.5	
		双方向授業、共同授業カンファレンスによる遠隔地の教員・学生の情報共有・連携強化			3.6	
循環型交流の実現をする	定量的評価	連携大学間において共同研究実施（5プロジェクト）	4.2	4.3	4.0	
		共同授業カンファレンス開催（年5回以上）			4.2	
		多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年1回開催			4.6	
		教員の指導能力向上のための ファカルティ・ディベロップメントの開催（年1回以上）			5.0	
		連携大学間の教員循環授業を開催（年7講義以上）			3.0	
	定性的評価	臨床研究、臨床試験、国際共同臨床試験等への参加	4.0	4.0		
地域との交流・均てん化の実施	定量的評価	大学病院と地域病院間での共同カンファレンス開催（年2回以上）	4.2	4.4	4.0	
		多職種コミュニケーション研修（合宿）毎年開催			4.5	
	定性的評価	地域医療機関での実習実績		4.0	4.0	4.0
		地域がん登録との連携				4.0
国際化に向けた拠点センターの設置	定量的評価	国際学会等での研究論文発表数（年間5件以上）	4.0	3.8	3.8	
		海外の先進的な研究機関等への研修派遣（年間1名以上）			3.8	
		海外の先進的な大学から教員を招聘し講義を開催（年3回以上）			4.0	
		海外より招聘し、国際シンポジウムを開催（年1回以上）			3.8	
	定性的評価	研究コーディネータの雇用	4.5	4.5	5.0	
		がん研究者の連携・共同研究の実施			4.4	

達成目標と自己評価

自己評価結果（平成24.25年度）

■ 連携7大学での共同事業および各大学における分担事業の自己評価（7大学の平均値）を表示しています。

達成目標	評価区分	評価指標	自己評価平均値		
			達成目標	評価区分	評価指標
がん診療への貢献・社会への情報発信をおこなう	定量的評価	HP更新(月1回以上)	4.5	4.6	4.4
		一般向講演会の開催(年3回以上)			3.8
		活動報告書作成(年1回)			5.0
		ニュースレター作成(年4回)			5.0
	定性的評価	臨床現場との連携強化		4.2	4.2
がん医療教育の充実を図る	定量的評価	インテンシブコースの設置(連携大学あわせて3コース)	4.2	4.3	4.3
		e-learningを活用(共通科目11科目作成)			3.7
		ICTを活用し、双方向の授業を開催(共通科目年4回開催)			5.0
		各コースの受入目標人数に対する充足率100%			4.1
		認定看護師資格取得100%			5.0
	定性的評価	チーム医療の重要性を教育	4.0	4.1	
		実質的ながん医療人の教育		3.9	
		ファカルティ・ディベロップメント(ワークショップ)のプロダクト		4.5	
		がん治療認定医の資格取得を推奨			3.3
がん研究の実施基盤の設置	定量的評価	連携大学間において共通研究プロトコルの作成(5プロジェクト以上)	3.9	3.8	3.7
		がんに関する研究論文発表(年間5件以上)			3.8
	定性的評価	がん研究者の連携・共同研究の実施			

ICTと人をつなぐがん医療 維新プラン(平成24.25年度) 自己評価結果	定量的評価	4.3
	定性的評価	4.1
	総合評価	4.3

■ 評価の基準

5.0～4.1	当初の計画の通り進展している。
4.0～3.1	概ね順調に進展している。
3.0～2.1	実施できていない部分もあるが、来年度には実施できる見込みである。
2.0～1.1	やや遅れている／実施に向けた検討を行なっているが、実施時期は未定である。
1.0	当初の計画より大幅に遅れている。／実施できていない。

順天堂大学

大学名等	順天堂大学大学院医学研究科医学専攻(博士課程)																																	
コースの名称	次世代先導的がん研究者養成コース																																	
養成する専門分野	がん研究医																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成25年4月 / 4年																																	
コースの履修対象者	医学研究科医学専攻(博士課程)大学院生																																	
養成する人材像	地域から世界まで俯瞰する力を持ち、高度な研究能力を有する次世代がん研究者の養成をおこなう。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<p>がん臨床の専門家と研究者のもとでの研修(演習・実験実習・研究指導等)に加え、連携大学とのテレビ会議等を利用した講義や合同の研究カンファレンスに参加することにより、履修者・国内留学生はトランスレーショナルな研究課題のディスカッション・発表会を行うことができる。</p> <p>後述の先導的がん医療開発研究センターによる研究コンサルティング等の支援を利用することで、質の高いがんに関する研究の計画立案・計画書作成を行うことが期待できる。また、大学間連携事業(ICT特別講義、FD研修会、臨床研究チーム研修等)にも積極的に参加することにより、連携大学・協力施設等との共同研究に繋がるシーズを発見することが可能となり、質の高い学位論文の公表が見込まれる。さらには、教員同士の人材循環も積極的に促す仕組みを構築することが可能となり、がん臨床研究の質の向上、がん医療の質の向上が期待される。</p>																																	
教育内容の特色等	<p>ICT環境を利用した講義・カンファレンス、大学間連携事業(FD研修会等)により、連携大学との情報交換がより効果的に行われる。また、順天堂大学に新たに整備する「先導的がん医療開発研究センター」による研究支援のもと、履修者はがんの研究プロトコル作成等を効率よく行うことができる。具体的には、基礎データベース活用による研究計画書の制度を上げる支援および、研究デザインに関する検討・統計的側面からの支援を受けることが可能である。また、連携大学および協力施設との共同研究計画についても、当該センターがICTを積極的に活用し、連携のコーディネートを行うことで、共同研究計画の立案・作成がより円滑になる。</p>																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H 24</th> <th>H 25</th> <th>H 26</th> <th>H 27</th> <th>H 28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計	募集人員	0	5	5	5	5	20	受入目標人数	0	5	5	5	5	20	受入実績(H25.9.1時点)	0	12				
年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計																												
募集人員	0	5	5	5	5	20																												
受入目標人数	0	5	5	5	5	20																												
受入実績(H25.9.1時点)	0	12																																

順天堂大学

大学名等	順天堂大学大学院医学研究科医学専攻																																	
コースの名称	次世代先導的がん専門医療人養成コース(インテンシブ)																																	
養成する専門分野	がん治療																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成25年4月 / 1年間(20講義)																																	
コースの履修対象者	医師、薬剤師、看護師、その他メディカルスタッフ																																	
養成する人材像	がん診療の最前線を学ぶとともに、基本的ながん臨床・基礎研究を理解できる次世代がん専門医療人を養成する。また、地域がん医療の現状や医師不足・地域定着化への連携を理解できるメディカルスタッフを育成する。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	がん診療に関わる医療人の質の底上げが可能になる。がん研究や地域におけるがん医療の現状を理解することにより、日本、特に東京都・千葉県・静岡県の離島過疎地区におけるがんの地域医療の均てん化が是正される。																																	
教育内容の特色等	基礎研究の成果をがん患者の診療の現場に活かすために、臨床に視点においた大学院レベルの基礎教育を実施する。ICT(TV会議やe-learning)も活用し、地域がん医療の現状・国際的ながん医療を学ぶ。																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>34</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	0	20	20	20	20	80	受入目標人数	0	10	10	10	10	40	受入実績(H25.9.1時点)	0	34				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																												
募集人員	0	20	20	20	20	80																												
受入目標人数	0	10	10	10	10	40																												
受入実績(H25.9.1時点)	0	34																																

島根大学

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻																																	
コースの名称	地域がん専門医育成コース																																	
養成する専門分野	がん化学療法																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成25年4月 / 4年																																	
コースの履修対象者	大学院医学系研究科医科学専攻博士課程 大学院生																																	
養成する人材像	地域のがん医療の均てん化を図るために、地域に多い高齢者がん医療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療専門医を養成すると共に、リサーチマインドを有し、臨床試験を計画し、山陰地区からエビデンスを発信できる能力を育成する。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	山陰におけるがん診療医師不在、不足の解消と地域への定着化を促進し、県民が安定したがん医療の提供を受けることを可能とする。																																	
教育内容の特色等	がん診療の基本、治療の適応と禁忌を知り、診療ネットワークの構築について学ぶと共にトランスレーショナルリサーチ、臨床試験についての演習を含む教育内容とする。																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	0	3	3	3	3	12	受入目標人数	0	3	3	3	3	12	受入実績(H25.9.1時点)	0	1				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																												
募集人員	0	3	3	3	3	12																												
受入目標人数	0	3	3	3	3	12																												
受入実績(H25.9.1時点)	0	1																																



島根大学（鳥取大学）

大学名等	島根大学大学院医学系研究科医科学専攻 (鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻)																																	
コースの名称	山陰がん認定医療スタッフ育成コース(インテンシブ) (鳥取大学との合同事業)																																	
養成する専門分野	地域がん認定医療																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成24年10月 / 1年間																																	
コースの履修対象者	地域の医師、薬剤師、看護師、その他メディカルスタッフ																																	
養成する人材像	山陰地区の日常がん治療水準向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識・基本技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師及びメディカルスタッフを養成する。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	山陰地区におけるがん診療医師及びメディカルスタッフ(看護師、薬剤師、臨床検査技師(細胞診検査、超音波検査)など)の地域偏在の解消と地域への定着化を促進し、最新がん医療の学び直しを行うことで、県民が安定したがん医療の提供を受けることを可能とする。																																	
教育内容の特色等	地域がん診療ネットワークの強化と山陰地区全体のがん医療の均てん化を図る。臨床腫瘍学の基礎知識、画像診断、がん化学療法、外科治療、集学的治療、緩和医療など幅広いトピックスを公開講座形式で随時開講する。一部の講義はeラーニングシステムを利用して受講することも可能とする。																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H 24</th> <th>H 25</th> <th>H 26</th> <th>H 27</th> <th>H 28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>16</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計	募集人員	15	15	15	15	15	75	受入目標人数	15	15	15	15	15	75	受入実績(H25.9.1時点)	16	26				
年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計																												
募集人員	15	15	15	15	15	75																												
受入目標人数	15	15	15	15	15	75																												
受入実績(H25.9.1時点)	16	26																																

鳥取大学

大学名等	鳥取大学大学院医学系研究科看護学専攻																												
コースの名称	がん看護専門(認定)看護師養成コース																												
養成する専門分野	<ol style="list-style-type: none"> 1 がん看護専門看護師 2 認定看護師(がん化学療法看護) 																												
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成26年4月予定 / 2年 2 平成24年9月 / 7ヶ月 																												
コースの履修対象者	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床看護経験が5年以上およびがん看護経験が3年以上ある者で本学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程(がん看護専門看護師コース)に入学した者。 2 臨床看護経験が5年以上および、がん化学療法の臨床経験が3年以上ある者で、本学の定める入学試験に合格した者。 																												
養成する人材像	<ol style="list-style-type: none"> 1 がん看護分野、特に化学療法と緩和ケアの分野において、実践、教育、相談、調整、研究、倫理において卓越した知識・技能を持つ者。 2 がん化学療法看護に関して卓越した技能を有する者。本コース終了後、看護協会で定める認定看護師認定審査に受験・合格可能な者。 																												
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<ol style="list-style-type: none"> 1 がん看護専門看護師が絶対的に不足している山陰両県において、幅広くがん看護の質が向上するとともに、がんに関わる認定看護師の育成が期待される。地域医療における外来化学療法および緩和医療において、患者管理や看護実践に対する教育やコンサルテーションが可能となる。 2 がん化学療法認定看護師が絶対的に不足している山陰両県において、がん化学療法に対する知識、技能を習得し、がん患者とのコミュニケーションがスムーズにできる看護師が養成されることによって、外来がん化学療法の治療環境が良くなり、がん化学療法実施による副作用等のリスクが少なくなる。 																												
教育内容の特色等	<ol style="list-style-type: none"> 1 がん全般の知識・技術を習熟し、地域医療に活かせる化学療法看護および緩和ケア看護を重点的に教育する。 2 がん化学療法の知識、技能およびコミュニケーション能力の向上により、患者の異変に対する早期発見・早期対処が可能となる。また、自らの実践力を向上させる能力を育成する。 																												
1 養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H 24</th> <th>H 25</th> <th>H 26</th> <th>H 27</th> <th>H 28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計	募集人員	0	0	0	2	2	4	受入目標人数	0	0	0	2	2	4	受入実績(H25.9.1時点)	0	0				
年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計																							
募集人員	0	0	0	2	2	4																							
受入目標人数	0	0	0	2	2	4																							
受入実績(H25.9.1時点)	0	0																											
2 養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H 24</th> <th>H 25</th> <th>H 26</th> <th>H 27</th> <th>H 28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>7</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計	募集人員	10	10	10	10	10	50	受入目標人数	10	10	10	10	10	50	受入実績(H25.9.1時点)	7	9				
年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計																							
募集人員	10	10	10	10	10	50																							
受入目標人数	10	10	10	10	10	50																							
受入実績(H25.9.1時点)	7	9																											

岩手医科大学

大学名等	岩手医科大学大学院医学研究科医科学専攻・内科系専攻																																	
コースの名称	緩和ケア地域連携を支援する指導的医療人育成コース																																	
養成する専門分野	緩和医療																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成25年4月 / 修士課程：2年 博士課程：4年																																	
コースの履修対象者	大学院医学研究科医科学専攻応用医科学群 修士課程 大学院医学研究科内科系専攻 博士課程																																	
養成する人材像	がん治療経過中のQOL維持には、地域連携による緩和ケアの持続的な提供が不可欠である。しかし近年の医師不足に加え、先の震災により、東北における緩和ケアの地域連携は各地で壊滅的な打撃を受けた。本コースは、各地域の緩和ケア連携体制の再構築および均てん化を目指し、訪問看護医療も含めた地域ごとの実情に沿った連携システムの整備、ならびに永続的支援を提供するための、各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人育成を目標とする。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> ● 緩和ケアを含めた、がん治療全般に対する知識、技術を獲得することにより、各種認定資格(がん治療認定医、緩和薬物療法認定薬剤師等)の取得を学術的に支援する。 ● 各地域において、緩和ケア医療連携が整備されることにより、居住地によらずがん患者が安定して緩和ケアを受けることが可能となる。 																																	
教育内容の特色等	本コースは、「北東北がん医療コンソーシアム」の現場で活動している各医療専門職を主な対象として、緩和ケアについての高度な知識・技術を獲得するとともに、実践的演習を通じて、チーム医療を構成する各職種の専門性を理解し、適切なコミュニケーション、情報の共有方法、およびチームマネジメントの手法を学ぶ。																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	0	3	3	3	3	12	受入目標人数	0	3	3	3	3	12	受入実績(H25.9.1時点)	0	1				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																												
募集人員	0	3	3	3	3	12																												
受入目標人数	0	3	3	3	3	12																												
受入実績(H25.9.1時点)	0	1																																

岩手医科大学

大学名等	岩手医科大学大学院医学研究科医科学専攻																												
コースの名称	先導的がん臨床研究に精通した医療人育成コース(インテンシブ)																												
養成する専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ●トランスレーショナルリサーチ(TR)マネジメント ●レギュラトリーサイエンス 																												
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成25年4月 / 1年間(3単位)																												
コースの履修対象者	<p>先導的がん医療システム開発コンソーシアム(がん医療イノベーション)の参画者を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 医師/看護師/薬剤師をはじめとした医療者 ■ 医療系/理工系研究者 ■ 医薬品・医療機器開発企業担当者 																												
養成する人材像	<p>地域で高品位ながん医療を効率的・経済的に運用するため、医療現場のニーズに応じた医薬品・医療機器の開発を行うため、生命科学あるいは理工系の知識に造詣が深く、TRに精通し、守られるべき患者の権利を尊重する敬虔な医療人の育成する。さらにレギュラトリーサイエンスに精通し、臨床試験を実施できる人材の育成を行う。</p>																												
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> ●本インテンシブコースの参加者を中心に、3年後を目標として大学院博士課程でのコース設立を目指す。専門家の集うインテンシブコースを設立準備機構として位置づけ、大学院コースに昇華させる。 ●人口移動の少ない岩手の地勢メリットを生かし、長期フォローの可能な、世界的にも類を見ないがん研究拠点形成の第一歩と期待される。 ●壊滅的な被害を受けた岩手沿岸地域に、先導的ながん医療臨床試験のフロンティアフィールドを整備するために必要な人材が育成され、地域住民の福祉にも直接的に貢献する。 																												
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ●本コースは、異分野の専門職が集い討議するワークショップ形式のプログラムと、TRならびにレギュラトリーサイエンスに係る講義を併用し、地域で先導的ながん医療を実践するために必要な知識を習得する全く新しい試みである。 ●教育課程では東京理科大学大学院との連携を行う。 																												
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	0	5	5	5	3	18	受入目標人数	0	5	5	5	3	18	受入実績(H25.9.1時点)	0	5				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																							
募集人員	0	5	5	5	3	18																							
受入目標人数	0	5	5	5	3	18																							
受入実績(H25.9.1時点)	0	5																											

東京理科大学

大学名等	東京理科大学薬学研究科薬科学専攻修士課程																																	
コースの名称	がんシステム・創薬研究者養成コース																																	
養成する専門分野	創薬医科学																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成24年4月 / 2年間																																	
コースの履修対象者	薬学研究科薬科学専攻修士課程 大学院生																																	
養成する人材像	<p>がん研究は、がん遺伝子を基点としたオミックスデータやがん細胞の分子生物学的な研究手法により、がんの複雑さが明らかにされてきてはいるが、まだ十分に御することができないのが現状である。そのため、(1)がん細胞及び制がん剤作用機序を細胞内シグナル伝達系の集積による「システムの統合」として理解し、さらに、(2)がん分子標的薬開発を標的タンパク質の立体構造情報に基づいて理論的に創薬する「in silico 創薬」を理解して、21世紀のがんゲノム医療を支える研究者を養成することが重要課題となっている。本研究教育コースでは、このような点に焦点を絞り、国際的にも活躍できる優れた創薬研究者を養成する。</p>																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<p>本研究教育コースにより、がん病態やがんシグナルパスウェイからがん分子標的の同定や、制がん剤の作用・副作用機序等を「がん統合システム」として理解し、さらに、コンピュータシミュレーション技術を活用してがん分子標的タンパク質の立体構造を基に理論的な創薬を追及する「in silico創薬」の重要性を理解した新世代の創薬研究者が輩出されることになる。また、本コースで論理的がん戦略を推進する人材が養成されることによって、現在のがん研究が直面しているがん幹細胞や新規制がん剤開発等に関する様々な難問、限界を飛び越え、我が国のがん研究の水準が飛躍的に向上するとともに、がん医療体制を強化するなどの波及効果が期待される。</p>																																	
教育内容の特色等	<p>従来の教育コースにはなかった以下の学問領域・演習により成る「がんシステム・創薬学」について、順天堂大学医学部及び製薬企業等と実質的な連携体制を構築して実施する。このような研究教育内容はこれまでになく、極めて独創性に富んでいる。</p> <p>(1)「がんシステム統合学」 がん細胞内の集積回路の解析とその数理モデル作成によって、個々のがん特異的な遺伝障害による集積回路の構造的、機能的变化からがん発症の仕組みや特性を理解することによって、がんをゲノム・エピゲノムからメタボロームまでを一貫したシステムとして捉える。さらに、制がん剤の作用機序も細胞内シグナル伝達系集積システムとして理解する。</p> <p>(2)「ゲノム創薬科学」 がん遺伝子を基点とした制がん剤開発のためのがん標的タンパク質分子の立体構造情報に基づく理論的創薬手法を理解する。特にがん遺伝子の変異に対応した最適制がん剤を理論的に創成するためのコンピュータシミュレーション技術、副作用や薬剤耐性を克服するための方策を立案する能力を涵養する。</p> <p>(3)「臨床データ・サンプルを用いた研究技法演習」 順天堂大学医学部と連携し、臨床データやサンプルを用いて上記「がんシステム」、「in silico創薬手法」、「制がん剤の処方デザイン」などの妥当性・有効性を検証する。このように臨床と直結した研究技法演習を行う。</p>																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H 24</th> <th>H 25</th> <th>H 26</th> <th>H 27</th> <th>H 28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>10</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計	募集人員	3	5	5	5	5	23	受入目標人数	3	5	5	5	5	23	受入実績(H25.9.1時点)	10	6				
年 度	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	計																												
募集人員	3	5	5	5	5	23																												
受入目標人数	3	5	5	5	5	23																												
受入実績(H25.9.1時点)	10	6																																

明治薬科大学

大学名等	明治薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程																																	
コースの名称	がん薬物療法のファーマシー・サイエンティスト養成教育コース																																	
養成する専門分野	薬剤師																																	
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成24年4月 / 4年																																	
コースの履修対象者	薬学研究科薬学専攻博士課程大学院生・科目等履修生																																	
養成する人材像	がん薬物治療の集学的治療に貢献できる国際的な薬学知識と研究能力をもつ優れたファーマシスト・サイエンティスト (pharmacist scientist) を養成する。																																	
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> ● がん薬物療法における薬剤師の貢献に高度な学術的内容を付加できる。 ● 薬剤師の治療評価診断能力を養成出来る。 ● 社会人大学院生を積極的に受け入れ、がん医療に関わる薬剤師の教育および研究指導者を養成できる。 ● 欧米大学との教育連携により国際的レベルの臨床薬剤師育成教育ができる。 ● 社会人大学院学生に対して各種学会(医療薬学会、臨床薬理学会等)の認定専門薬剤師取得を学術的に支援できる。 																																	
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床現場で活躍する薬剤師を社会人大学院生として積極的に受け入れ、教育・学術研究能力を育成する。 ● 学内および順天堂大学の専門医によるフィジカルアセスメント教育プログラム創設。 ● 教育連携を実施している欧米3大学および順天堂大学医学部から教員を招聘し、日米欧教育シンポジウムと短期集中がん薬物療法教育プログラムを実施する。 																																	
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>5</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	2	3	3	3	3	14	受入目標人数	2	2	2	2	2	10	受入実績(H25.9.1時点)	5	3				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																												
募集人員	2	3	3	3	3	14																												
受入目標人数	2	2	2	2	2	10																												
受入実績(H25.9.1時点)	5	3																																

立教大学

大学名等	立教大学理学研究科物理学専攻																												
コースの名称	医学物理研究コース																												
養成する専門分野	医学物理士																												
コースの開始時期／ 修業年限(期間)	平成24年4月 / 3年																												
コースの履修対象者	理学研究科物理学専攻大学院生(後期課程)																												
養成する人材像	放射線の本質を理解し、最先端の放射線計測技術の成果を臨床現場のニーズに合わせて活用できる能力を有する医学物理研究者及び医学物理士。																												
当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム)	<ul style="list-style-type: none"> ● がん治療時のリアルタイムでの照射量測定技術の開発。 ● 高精度がん治療における品質保証の向上。 ● 臨床現場と放射線技術開発の密接な連携強化。 ● 福島原発事故からの復興に関わる保健物理への貢献。 																												
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床現場に身を置き、現場ニーズにあった放射線制御およびモニター装置の開発等研究開発能力を備えた博士の育成。 																												
養成人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人員</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>受入目標人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>受入実績(H25.9.1時点)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計	募集人員	2	2	2	3	3	12	受入目標人数	1	1	1	2	2	7	受入実績(H25.9.1時点)	0	1				
年 度	H24	H25	H26	H27	H28	計																							
募集人員	2	2	2	3	3	12																							
受入目標人数	1	1	1	2	2	7																							
受入実績(H25.9.1時点)	0	1																											

順天堂大学

医学部 腫瘍内科学研究室

国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が死亡する悪性腫瘍の治療成績の向上は、我が国の医療における最大の課題であり、がん医療に専門的に従事する優秀な次代の人材を育てることが国民からも強く求められています。がんは遺伝子の構造異常により生じる病気であるため、一つの遺伝子異常が複数の臓器にまたがることも稀ではなく、次代のがん医療従事者は臓器横断的な俯瞰的な視点を持つ必要があります。腫瘍内科学研究室は、臓器別に理解されている知識を有機的に結びつけ、がん細胞の分子生物学的特性というミクロのレベルから、実際の患者の発癌、転移などの臨床的病態の理解および治療というマクロレベルまで、深い洞察力を持った若い医師の育成のために、がんの特化した講座として新設されました。

臨床腫瘍学(腫瘍内科学)に関する卒前教育(医学教育)・卒後教育(大学院生に対する研究、論文指導)のみならず、臨床試験のプロトコル企画・実施の支援、がん治療センターの運営支援、さらには先導的医療開発センターを拠点とした連携大学間の研究支援をつなぐ一拠点として活動を行って参ります。

教員数(H25.9.1)	教授 1名	准教授 1名	講師 0名	助教 2名	非常勤 10名
--------------	-------	--------	-------	-------	---------

<特記事項>

研究室担当教授は平成25年12月就任予定(現、客員教授)である。現在在籍している教授1名(臨床教授)、准教授1名は附属病院勤務者である。医学部腫瘍内科学研究室の大学院における研究分野名称は医学研究科臨床腫瘍学である。

医学部 緩和医療学研究室

緩和医療学研究室は、自然科学と人間科学を統合した緩和ケア学の確立と教育・実践、緩和医療医養成、緩和ケアに関心を有する医療従事者の育成、緩和ケア領域における臨床研究を行うことを目的としています。

本研究室では、附属病院に設置された緩和ケアセンターの運営に携わっています。麻酔科ペインクリニック医師、メンタルクリニック医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーで構成される緩和ケアのチーム医療を通じ、病を抱えながら過ごす患者さん(主にがんの患者さん)とご家族に対し、希望を大切に充実した豊かな人生を「生きること」を支援します。多職種間のコミュニケーションを重視したチーム医療を通じて、がん専門医療人の養成を行います。また、緩和ケア領域における臨床研究を通じてがん研究者を養成し、患者・家族ケアの質の向上と地域・社会貢献に努めて参ります。

教員数(H25.9.1)	教授 1名	准教授 1名	講師 0名	助教 1名	非常勤 1名
--------------	-------	--------	-------	-------	--------

医学部 放射線治療学講座

本講座は、放射線医学講座が放射線診断学講座と放射線治療学講座に発展的に分離、独立しました。設立の目的は、放射線腫瘍医、医学物理士の有機的統合により高精度放射線治療の基礎および臨床研究を行い、かつ、がん治療教育の充実を図ること、また、連携大学との協力による相互の診療と各地域がん診療の充実を図ることです。

放射線治療専門医(7名)と医学物理士(助教3名)を中心に、大学院生に対する放射線生物学および医学物理学の基礎研究指導を行っています。さらに、基礎研究を基盤に高精度放射線治療の開発研究を進めています。連携大学とは臨床面および医学物理面で協力体制の構築を行っています。

このような研究・教育体制により「基礎研究に造詣の深い放射線腫瘍医、医学物理士、放射線治療専門技師」の育成を図っています。

教員数(H25.9.1)	教授 1名	准教授 3名	講師 0名	助教 5名	非常勤 9名
--------------	-------	--------	-------	-------	--------

<特記事項>

助教には医学物理士1名を含みます。

また、上記以外に臨床腫瘍学講座所属助教(医学物理士)2名も全面的に本講座の教育、研究、臨床に参加しています。

がんの特化した講座等について

島根大学

緩和ケア講座

緩和ケア講座は、教育(卒前、卒後、大学院)、臨床、研究を担当しています。卒前教育としての医学生教育は、ロールプレイを取り入れたチュートリアル教育と臨床実習で全人的な痛みを理解することに重点を置いています。当大学病院には、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来で臨床実践が行える、全国でも有数の緩和ケア臨床システムを構築しており、卒後教育として希望する初期研修医には緩和ケア病棟で教育を行い、その後は緩和ケア専門医育成プログラムによる専門教育を予定しています。他の医療関係者に対しては、島根県と連携した研修会による緩和ケア専門医療者(医師、医療スタッフ)の認定と育成を行うこと、大学院教育については緩和ケアを大学院で教育するために痛みの治療と地域連携ケアの研究を、ICTを利用して展開していく方針です。

教員数(H25.9.1)	教授 1名	准教授 0名	講師 0名	助教 0名	非常勤 0名
--------------	-------	--------	-------	-------	--------

岩手医科大学

緩和医療学科

本学科は、緩和ケアの卒前・卒後の教育の確立・実践、臨床研究者の育成、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備と各専門職種からなるスキルミクス指向型の指導的医療人の育成を目的としています。

教員数(H25.9.1)	教授 0名	准教授 0名	講師 0名	助教 0名	非常勤 0名
--------------	-------	--------	-------	-------	--------

<特記事項> H25.10.1 設置済み。 教授1名、准教授または講師1名、助教1名を配置予定。

放射線腫瘍学科

本学科は、放射線腫瘍学の卒前・卒後の教育の確立・実践、地域ごとの実情に沿った連携システムの整備、放射線治療に生物学・物理学的最適化戦略を開発・研究するがん放射線治療医の育成を目的としています。

教員数(H25.9.1)	教授 0名	准教授 0名	講師 0名	助教 0名	非常勤 0名
--------------	-------	--------	-------	-------	--------

<特記事項> H25.11.1 設置予定。 教授1名、准教授または講師1名、助教1名を配置予定。

明治薬科大学

がん先端治療学(アルファ粒子線・免疫治療学)

がんに対する中性子捕捉療法は難治性がんの治療として注目されています。本講座では、中性子捕捉化合物として新規のホウ素およびガドリニウム化合物を本学の化学研究者と共同で開発・改良すること、捕捉化合物をがん組織に効率的に送達させるdrug delivery systemの開発すること、さらにはこれに免疫療法を加味した新規治療法を開発することを目的としています。今後、本学の創薬研究者との共同研究で新規がん治療法が開発されることが期待されます。

教員数(H25.10.1)	教授 1名	准教授 0名	講師 0名	助教 0名	非常勤 0名
---------------	-------	--------	-------	-------	--------

<特記事項> 期間：平成25年10月1日から3年間。

ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン 外部評価委員会

発行日：平成25年10月

編集：順天堂大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局

発行：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン連携7大学運営連絡会

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1 電話 03-5802-1710(直通)

URL <http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>
